

# 葛藤状態にある保育場面への対処について

萩原英敏

(2007年9月23日受理)

## 要約

将来保育士になろうとする学生が、葛藤状態にある架空場面で、どの様な対処の仕方をするのか、その決断に要する時間は、その決断時の気持は、など、首都圏の学生、1年生137人、2年生151人に対して、アンケート調査を行なったところ、以下の様な結果が明らかになった。

1. 対処の仕方では、場面によって相当異なることが、明らかになった。それは保育士が子どもの気持に同一化しようとする気持「整合希求性」の強い対処、一方保育士が大人としての役割を持つようとする気持「自己充実欲求」の強い対処、またこの双方の立場をとろうとする対処、あるいはどちらかを取ろうとする対処など、葛藤が強く感じられる対処、すなわち計4つに分類出来る、対処の仕方を行なっていることが、明らかになった。
2. 決断に要する時間は、場面によって少し差がある事がわかった。すなわち「整合希求性」と「自己充実欲求」の双方の立場か、あるいはどちらかを取ろうとする対処で、相当時間をかけて、決断している事がわかった。一方「自己充実欲求」の強い決断では、すぐ決断をしていた。
3. 決断時の気持は、場面によって相当異なることが、明らかになった。すなわち「整合希求性」と「自己充実欲求」の双方の立場を取ろうとした場合、強い葛藤で苦しい気持を感じていることが明らかになった。一方「整合希求性」の強い決断では、気軽に感じられていた。
4. 学年差から、講義、書物、実習などから、対処の仕方、気持が変わるか見たところ、子どもに危険性の高い行為を認めるかどうかの場面で、2年生になると、「自己充実欲求」より、「整合希求性」や、双方の立場を取った対処を選ぶようになった。ただこれ以外の場面では対処の仕方や、決断時の気持に、学年差は認められなかった。

1

キーワード 葛藤、保育場面、対処、時間、気持

## 1. はじめに

まだお座り出来ない乳児といっしょに過ごす時、乳児の顔面の上で、小さなタオルをグルグル回転させる。そして少し勢いが無くなった時点で、パッと顔の上に落とし、暗くなった後すぐ顔から、そのタオルを取ってあげる。いわゆる、イナイ、イナイ、バーの様な、やり取りをすると、時として、乳児は足をばたつかせたり、声を出して笑ったりする。こんなやり取りを繰り返している内に、タオルを回転か落下させようとする時、乳児はそれを取ろうとして、どちらかの手を伸ばそうとする。ある時は右手、別の時は左手、時として両手で。この時、乳児は、「どちらの手で、タオルを取ろうとしているのかなあ、あるいは両手なのかなあ」と、思った事があった。その時の体験を乳児は、成長後には何ら記憶していないだろうが、これが今回のテーマである「葛藤 (conflict)」場面として、人生の最初に経験したものかも知れない。人間は、その一生において、このような葛藤場面に出合い、そこで何らかの対処をする。だがそこで問題がすべて解決した訳でなく、また別の葛藤場面に出合い、またそこでの何らかの対処をする。そしてまた別の葛藤場面を……、一生終えるまで、この葛藤の連続であると考えてもよいのではなかろうか。ただ心理学では、乳児が左右のどちらにも、ある物があるという状況下で、どちらに手を伸ばすかという事を問題にする。すなわち、葛藤とは、「2つ以上の対立する傾向 (衝動、要求など) が、ほぼ等しい強さで同時に存在し、行動の決定が困難な状態をいう。そして、この対立するものの誘意性が拮抗していれば、選択は困難となり、緊張状態になる」<sup>1)</sup> と定義されている。

さて乳児期の葛藤経験から約20年後、乳児の養育を担う事になる保育士になろうとする学生が眼前にいる。その学生が将来出くわすであろう保育場面 (講義・書物からの情報、実習、ボランティアなどの経験を通して) に対して、どの様に対処しようとし、またその対処する時の葛藤状況が、精神的にどの程度のものなのだろうか、を明らかにする事を、今回の研究の第1の目標とした。その第2は、葛藤場面により、対処傾向がどのように異なるだろうか、という事である。最後に、実習経験のある2年生と、また未経験の1年生では、対処や葛藤状況での精神面で、どの様な差があるだろうか、を見る事である。以上3つの点を目標に研究を進めた。

そもそも、養育するという場面において、養育者は子どもの気持に同一化しようとする気持—繫合希求性 (他者と気持ちを繋ぎ合わせようとする気持)<sup>2)</sup> と、親・大人としての役割を持つとする気持—自己充実欲求 (自分である事を志向する気持) の葛藤状況にさらされている。親・大人は子どもの気持を十分かなえてやりたいと思いつつながら、一方、子どもの将来を思い、養育する為には、子どもの希望通りには振る舞えないという、ジレンマにいつも置かれているのである。そこで上記の目標の為に、具体的保育場面<sup>資料1)</sup>を設定し、その時の対処や気持などを見る事にした。

## II 方法

### 1. 対象者

首都圏の保育士志望の女子学生、1、2年生

1年生・・・137人

2年生・・・151人

### 2. 調査内容

保育場面の記述の多い、<sup>3)</sup>を参考資料とし、筆者が10 (A～J) の葛藤状況におちいる架空場面を設定した。そして、上記の目標の為に、(1) 対処の仕方は？ (2) その対処の決定に要する時間は？ (3) その対処の決断をする時のあなたの気持は？の質問をした。

(1)(2)(3)の質問とも、3段階にし、(1)は、子どもの気持に同一化しようとする繫合希求性…1点、親・大人としての役割と持とうとする自己充実欲求…3点、どちらにするかという葛藤状況…2点と配点した。

また(2)は、決断に要する時間で、すぐに…1点、ちょっと時間をかけて…2点、相当時間をかけて…3点と配点した。

さらに(3)は、決定する時の気持で、非常に苦しい…1点、やや苦しい…2点、気軽だ…3点と配点した。(資料1)

### 3. 調査時期

2006年4月～2007年5月

### 4. 分析方法

SPPSによる単純集計、平均値、カイ二乗検定

## III 結果及び考察

### 1. 架空場面の内容分析

この調査に当たっては、A～Jの10の架空場面を設定した。この架空場面が対象者にどうとらえられたか、(1) 対処の仕方、(3) 決断する時の気持、のデータから、その内容を分析する為、因子分析を行なった。その結果は、表1～4の通りである。表1、2の対処の仕方からみると、成分が4ないし5個に分類されており、架空場面は多様な内容になっている事がわかる。一方、表3、4の決断する時の気持からみると、成分が3個に分類され、しかもA場面以外は、ほとんど1つの成分の中に含まれ

ている事が明らかになった。すなわち、決断する時の葛藤の気持ちを、同じ程度に測定出来る内容の架空場面と思われるのである。

## 2. 各葛藤場面で、どのような対処の仕方をするのか

図1の単純集計の結果で明らかなように、場面によって対処の仕方が異なる事がわかる。この違いをより明確にしたのが、表7の平均点と、表10、表11の分布の差を見たものである。まず分布の差から見ていくと、場面B、Dは1、2年生共、他の場面と、対処の仕方を異にしており、平均点でも低得点を示している。すなわち、場面B、Dは、仲間関係において、以前の約束を反故にしてまでも、自己主張するそんな子どもの気持ちを汲んでやろうとする「整合希求性」の強い対処を学生が選ぶ結果になっている。一方、場面A、F、Hは、表10、表11の分布の差から、学年によって、お互い似た対処をしたり、異った対処があったりは見られるが、表7の平均点では、1、2年生共、高得点を示している。すなわち、場面A、F、Hなど、保育士が主導している集団活動に、子どもの主張がマイナスに働いたり、また危険性の高い行為を子どもがやろうとする時などに、「自己充実欲求」の強い対処を、学生が選ぶ結果になっている。さらにこのどちらにも属さない、双方の立場を取った対処と考えられるものは、場面E、Jと考えられる。このE、Jの2つの場面は、表10、表11の分布の差から見られるように、1、2年生共、似た対処をしており、他の場面とは異っている。また表7の平均点では、1、2年生共、中間点に近い。すなわち、仲間関係で故意ではなく、物を壊してしまったとか、保育士と子どもがクラス替えで、別れなければならなくなった、そんな場面で、このような対処を学生が選ぶ結果になっている。最後に残った場面C、G、Iは、表10、表11の分布の差から見られるように、1、2年生共、似た対処をしており、他の場面と異っている。また表7の平均点でも、1、2年生共、中間点に近い。この3つの場面は、「整合希求性」または「自己充実欲求」のどちらも選ぶ可能性の高い場面であり、前の双方の立場を取った対処と共に、保育者にとって葛藤を強く感じる場面と考えられる。具体的には、子どもにそれなりの理由があるが、共同作業などに支障をきたす行動であったり、本当の原因は別にあるのに、子どもの行為が望ましいものでなかったり、子どもの気持は理解出来るが、行為そのものは認められなかったり、などの場合の対処である。

4 以上の結果から、仲間関係ではマイナスの面が生じても、自己主張する子どもには、子どもの気持ちを汲む、「整合希求性」の強い扱いを選ぶが、保育士が主導している活動に子どもの主張がマイナスに働いたり、危険性の高い場合は、「自己充実欲求」の強い扱いを選ぶことがわかった。学生の意識において、後者の自己充実欲求の強い扱いが、保育士が主導した時の葛藤の場面や、危険性の高い場面などで選ばれている事は、人間形成を目的とした本来の保育がなされなかったり、子ども時代に必要とされるような危険な体験を、なるべく避けようとする大人側の要請に応じすぎる保育界の、今日の問題点が明らかにされたように思われる。

また、「整合希求性」「自己充実欲求」の双方の立場を取った対処や、どちらかを取った対処で、葛藤が強く感じられる場面は、必ずしも子ども自身に認めがたいものがある訳ではないが、その行動に対して、保育士としてそれなりの対処が求められる場合であることがわかった。

### 3. 各葛藤場面で、対処を決断する時、要する時間はどんなものか。

表5の分布の単純集計の結果で明らかのように、場面によって、決断に要する時間に少し差がある事が見られた。そこで平均値をとってみると、表8のようになった。高得点群は1、2年生共、G、J、の場面で、相当時間をかけて決断している。一方、1、2年生共最少得点の場面は、Hであった。すなわち相当時間をかけて決断している場面は、子ども自身のみの原因とは考えられず、大人側に問題があると考えられる望ましくない行動や、大人側の都合で、子どもが望ましくない行動をとった時に、見られるのである。これを前述の「対処の仕方」の関連でみると「整合希求性」と「自己充実欲求」の双方の立場を取ろうとする時や、そのどちらを選ぶ可能性の高い時で、保育者にとっては、葛藤を強く感じる場面と考えられる時に、相当時間をかけて決断している事がわかる。反対にすぐに決断をしたのは、Hの子どもが危険性の高い行為をやるようとする場面で、「自己充実欲求」の強い対処の時である。この葛藤の少ない即座の決断は、前述した通り、問題点を残していると思われるのである。

### 4. 各葛藤場面で、対処を決断する時、あなたの気持はどんなものか。

表6の単純集計の結果で明らかのように、場面によって、気持が苦しいものか、気軽なものなのか、異なる事がわかる。この違いをより明確にしたのが、表9の平均点と、表12、表13の分布の差を見たものである。まず分布の差から見ていくと、場面Gは1年生の場面Jのみ除いて、他の場面とは1、2年生共、他の場面とは異なる、苦しい気持を感じている。これは平均点にも出ている。すなわち、子ども自身のみの原因とは考えられず、大人側に問題があると考えられる望ましくない行動に対して、前述した様に、「整合希求性」と「自己充実欲求」の双方の立場を取ろうとし、相当時間をかけながら、葛藤の強い苦しい気持でいる事がわかる。次に分布の差から他の場面と多く異なるとは言えないが、平均点で、苦しい気持を感じているのは、1、2年生とも、J、Aの場面である。これは、大人側の都合で、子どもが望ましくなり行動をとった時や、保育士が主導している集団活動に、子どもの主張がマイナスの働いた場合であり、大人側の視点に立ちすぎた対処の苦しさが出ているように思われる。一方、気軽に感じられたものは、分布の差から見ていくと、どの場面とも異なるとはいいがたいが、平均点からみると、D場面である。これは、仲間関係において、以前の約束を反故にしてまでも、自己主張するそんな子どもの気持を汲んでやろうと、「整合希求性」の強い対処をすることを選択した時の、学生の気持である。この時は、自己主張をした子どもの視点に立てばよいんだという、あまり葛藤を感じないで対処し

ている事がわかる。なおD場面での決断に要する時間だが、少ない方だが、一番少ない場面ではない。すなわち、葛藤を強く感じる場面では、決断に相当時間をかける傾向にはあるが、完全には一致していないという結果である。

### 5. 対処の仕方、決断時の気持の学年差

表14の分布の差の結果からわかるように、H場面の対処の仕方が、2年生になると、「自己充実欲求」の対処より、「整合希求性」の対処および、その双方の立場を取った対処を選ぶ学生が、1年生の時より多くなっている。これは、H場面は、「少し坂が急なので、だれかケガしないか心配である」という、子どもに危険性の高い行為を認めるかどうかという場面であり、2年生になると、講義、書物、実習などを通して、危険性も伴うが、子どもの意欲などを尊重しようという態度に変わって来ている事を示すものである。ただこのH場面以外には、分布の差において、1年、2年の差は、対処の仕方、決定時の気持において、見られなかった。この事は、学年差において、対処の仕方、決断時の気持に大した差はない事がわかる。

## IV まとめ

将来保育士になろうとする学生が、保育場面—そこは2つ以上の対立する傾向が、ほぼ等しい強さで同時に存在する葛藤状態にあり、行動決定が困難である—、でどう対処するのか、を調べる為、葛藤状況におちいる、架空場面10 (A~J) を設定した。そして(1) 対処の仕方…これは、子どもの気持に同一化しようとする整合希求性、また逆に親・大人としての役割を持つようとする自己充実欲求、のどちらか、または双方の立場をとったものにするか、などが選択肢である。また(2) その対処の決断に要する時間、(3) その対処の決断をする時の気持、(4) 対処の仕方や決断時の気持に学年差があるか、などを明らかにすることを目的に、アンケート調査を行ない、以下の事が明らかになった。

1. 架空場面は、対処の仕方からは、4~5個の成分、また決断時の気持から、3個の成分ながら1つの共通な成分を持っている場面になっている。これは色々な角度から質問し、葛藤の気持を同じ程度に調べられる架空場面と考えられた。
2. 対処の仕方では、場面によって相当異なることが明らかになった。たとえば、場面B、Dなど、仲間関係で、以前の約束を反故にしてまで、自己主張をする子どもには「整合希求性」の強い対処をする。また、場面A、F、Hなど、保育士が主導している集団活動に、子どもが主張がマイナスに働いたり、危険性の高い行為をやるようとする時には、「自己充実欲求」の強い対処をする。他の場面C、E、G、I、Jでは、「整合希求性」、「自己充実欲求」双方の立場をとるか、どちらかを選ぶという葛藤を強く感じる対処をしていた。

3. 対処の決断に要する時間は、少し差がある事がわかった。対処の仕方で、葛藤を強く感じられると考えられる、場面G、Jで、相当な時間をかけて決断している。一方、対処の仕方で「自己充実欲求」の強い、場面Hでは、ほとんど時間をかけていなかった。
4. 対処を決断する時の気持では、場面によって、葛藤を強く感じる気持が苦しい時と、葛藤をあまり感じない気軽な時があることが明らかになった。たとえば場面Gの、子ども自身のみが原因でなく大人側に問題があり、望ましくない行動を起している時、「整合希求性」と「自己充実欲求」の双方の立場をとろうとし、強い葛藤を感じながら対処している事が明らかになった。一方、場面Dは、仲間関係において以前の約束を反故にしてまで、自己主張をするそんな子どもの気持を汲んで、「整合希求性」の強い対処をする時には、葛藤はあまり感じない事が明らかになった。
5. 対処の仕方、決断時の気持の学年差は、対処の仕方で、子どもの危険性の高い場面Hで、2年生が1年生より、「自己充実欲求」の少ない対処を選択するようになっていることが明らかになった。それ以外に対処の仕方、決断時の気持には、学年差は見られなかった。

#### 参考文献

- 1) 梅津八三〔ほか〕監修 『心理学事典』 平凡社 1981.
- 2) 鯨岡峻 『両義性の発達心理学』 ミネルヴァ書房 1998, P.8-15.
- 3) 今井和子, 神長美津子 『わたしの世界からわたしたちの世界へ』 フレーベル館 2003.

なお、調査に当たり、本学の松本教授、長谷部准教授に、御協力を得ました。この好意に対して、紙面をもってお礼申し上げます。

#### 資料1

#### 「保育場面での扱いについて」のアンケート

以下の分は、あなたが将来保育者として、子どもに接する時、出会うであろう場面を想定したものです。

そこで、あなたが各場面に対して

- (1) どう対処するか
- (2) その対処を決断するのに、要する時間はどんなものか
- (3) その対処を決断する時の、気持ちはどんなものか

の以上の3点について、尋ねることにしました。そこで将来これらの場面に出会うと仮定し、その時だったらこんな考えや感じをするだろう という今の思いを、答えて下さい。 ※文末の数は配点

**場面A** 給食の時間になり、他の子はやめたのに、3歳児のA男は、まだ絵を描き続けている。そこで担任が「Aちゃんご飯よ、皆待ってるよ、先に食べていい」と尋ねたが、A男は「ダメだ、まだ食べたらいかん」と怒る。A男は今まで外遊び中心で、お絵かきに興味を示さなかったが、何が気に入ったか、初めてお絵かきに集中する姿がみられた。保育者として、こんな機会は大事にしたいとも思う。

(1) 対処の仕方は? (どれか1つに丸を)

- ・他児を待たせているので、お絵かきをやめさせ、皆といっしょに食事をさせる。- 3
- ・せっかくお絵かきに興味を持ったのだから、他の子は食事をさせるが、A男だけは、最後まで書くのを認める。- 1
- ・もう少しやらせれば、お絵かきはやめるだろうと、皆の食事の時間を少し遅らせるが、あまり遅い場合は、皆には食事をとらせる。- 2

(2) この対処の決断に要する時間は? (どれか1つに丸を)

- ・すぐに- 1
- ・ちょっと時間をかけて- 2
- ・相当時間をかけて- 3

(3) この対処の決断をする時の、あなたの気持ちは? (どれか1つに丸を)

- ・非常に苦しい- 1
- ・やや苦しい- 2
- ・気軽だ- 3

**場面B** 4歳になったB子は、いつも集団では、リーダー格で、周りを自分の思い通りに動かしている。この日もお母さんごっこで、自分が母親役になり、かわいいエプロンを身に着けようとした。ところがいつもB子に従っているb子が、そのかわいいエプロンを自分も身に着けたいという気持ちを抑えきれなくなった為か「Bちゃんばかりズルイ、私も着けたい」と言って、取ろうとする。だがB子は「私が先に取ったの、後でbちゃんにお母さんの役をやらせるから、今は赤ちゃん役でがまんして」と言って、絶対そのエプロンを渡そうとしない。

(1) 対応の仕方は? (どれか1つに丸を)

- ・b子をはじめてB子に自己主張したという事に注目し、「いつもBちゃんがお母さん役やってるから、たまにはbちゃんにやらせたら」と言う。- 1



- ・ B子も b子も、互いの主張には、それなりの正当性があるので、保育者は互いの話をきくだけで、解決は2人にまかせる。－ 2
  - ・ 最初にエプロンを取ったのはB子だし、B子も後でお母さん役をやらせると言っているので、b子にがまんさせるようにする。－ 3
- (2) この対処の決断に要する時間は？ (どれか1つに丸を)
- ・ すぐに
  - ・ ちょっと時間をかけて
  - ・ 相当時間をかけて
- (3) この対処の決断をする時の、あなたの気持ちは？ (どれか1つに丸を)
- ・ 非常に苦しい
  - ・ やや苦しい
  - ・ 気軽だ

**場面C** 5歳児C男は、自然物を相手にする子で、その為他の仲間とはあまり接点を持ってない。今日は色んな石(水晶 めのうなど)を持ってきて、その石について詳しく保育者に説明するが、仲間はいったん話しを聞こうとするが、すぐすーと離れていく。保育者はC男がその石を通して、仲間との交流が出来ればと、C男の話をよく聞いてあげようとするが、それをやり続けると、他の子がやっている、共同制作の指導に支障をきたしてしまう。

- (1) 対処の仕方は？ (どれか1つに丸を)
- ・ 他の子がやっている共同制作の指導に支障をきたすので、C男が話す事に興味を失わない程度に、聞いてあげる。－ 2
  - ・ 石の話は十分に聞くむね、C男に伝え、なるべくC男も共同制作に参加するよう働きかける。－ 3
  - ・ C男が興味あるものについて、保育者は得意気に話すその気持ちを、大切に受け止め、なるべく話しを聞こうとする。－ 1
- (2) この対処の決断に要する時間は？ (どれか1つに丸を)
- ・ すぐに
  - ・ ちょっと時間をかけて
  - ・ 相当時間をかけて
- (3) この対処の決断をする時の、あなたの気持ちは？ (どれか1つに丸を)
- ・ 非常に苦しい
  - ・ やや苦しい
  - ・ 気軽だ

**場面D** 6歳児になるD子とd男は、園内で飼育しているウサギの世話係になった。D子はエサを与える役目をやりたいと申し出、それをやる事になったが、d男

は何をやっていいのかわからず、D子の後をついてまわるだけだった。D子はそんなd男に園舎の掃除をしてもらいたく、「d男は掃除をしろ」と言うが、d男もエサをやりたい気持ちもあり、掃除ばかりは嫌いそうである。このままでは、2人の世話係はうまくいきそうにないと、保育者には思われる。

(1) 対応の仕方は? (どれか1つに丸を)

- D子が役を決めたのに、d男が役を決められない事が原因なので、d男が役を決められる様、指導する。- 3
- D子がd男の意向を聞く前に、勝手に自分の役を決めてしまったのが原因なので、もう1度話しあわせ、役割を決めさせる。- 2
- D子にd男もエサを与えたいのだという気持ちを、保育者がD子に伝え、D子に時々d男にえさを与える機会を持たせる様、指導する。- 1

(2) この対処の決断に要する時間は? (どれか1つに丸を)

- すぐに
- ちょっと時間をかけて
- 相当時間をかけて

(3) この対処の決断をする時の、あなたの気持ちは? (どれか1つに丸を)

- 非常に苦しい
- やや苦しい
- 気軽だ

**場面E** 5歳児のE子らは、砂場で夢中にトンネルをほったり、川の流れを作ったりしている。しかし彼女らのイメージにそった風景がそろそろ完成に近づいた頃、E子は夢中になりすぎた為か、身体のバランスを無くしてしまい、ドスンと尻もちをつき、完成に近づいたものが、一瞬のうちに壊れてしまった。他の者はE子の壊した事を非難したが、E子は「自分はわざとしたのではない」と、保育者に自分に非がない事を訴える。

(1) 対応の仕方は? (どれか1つに丸を)

- E子はわざとではなくても、壊した事は事実なので、一応他の者に謝った方がいいと指導する。- 3
- E子はわざとしたのではないから、他の者が批判するのは良くないと、他の者が納得するようにする。- 1
- E子と他の子のやりとりを見守り、もう一度皆で作り直す気持ちが出る様、保育者が力ずける。- 2

(2) この対処の決断に要する時間は? (どれか1つに丸を)

- すぐに
- ちょっと時間をかけて
- 相当時間をかけて

(3) この対処の決断をする時の、あなたの気持ちは? (どれか1つに丸を)

- ・非常に苦しい
- ・やや苦しい
- ・気軽だ

**場面F** 3歳児のF子、もう片付けの時間が来て、他の者はおしまいにしているのに、自分だけは黙々と粘土遊びをやっている。保育者が「もう片付けの時間よ」と、声をかけるが、F子は「いや、私は赤ちゃんじゃない、自分の事は自分で決めるの」と言いはって、やめようとしなない。

(1) 対応の仕方は? (どれか1つに丸を)

- ・自分の事は自分で決めるという自己主張がなされている事を尊重し、F子が納得するまで、粘土遊びをさせる。- 1
- ・F子がやりたい気持ちは理解するが、他の者もその気持ちを持ちながら、やめている訳なので、ある程度の延長は認めても、それ以上は中止させる。- 2
- ・片付けの時間が来て、他の者もやめている事を理解させ、途中でも粘土遊びはやめさせる。- 3

(2) この対処の決断に要する時間は? (どれか1つに丸を)

- ・すぐに
- ・ちょっと時間をかけて
- ・相当時間をかけて

(3) この対処の決断をする時の、あなたの気持ちは? (どれか1つに丸を)

- ・非常に苦しい
- ・やや苦しい
- ・気軽だ

**場面G** 5歳児のG男は乱暴で、その暴力的行為に対して、他の者は迷惑し、嫌がっている。G男のこの様な行為は、家庭の夫婦仲の悪さが原因と考えられており、園での指導のみでは、なかなかこの行為は収まりそうにないと、保育者は考えている。

(1) 対応の仕方は? (どれか1つに丸を)

- ・G男の暴力的行為で、他の者が迷惑を受けているので「～ちゃんが嫌がっているでしょう」と、そのつど注意する。- 3
- ・家庭で十分受けとめてもらえない事が、これらの暴力的行為の原因と考え、注意する事を極力ひかえ、暖かく接する。- 1
- ・G男の暴力的行為が家庭の夫婦仲の問題である事を、親に理解させながら、園では、かなりひどい行為の時だけ、注意する事にする。- 2

(2) この対処の決断に要する時間は? (どれか1つに丸を)

- すぐに
  - ちょっと時間をかけて
  - 相当時間をかけて
- (3) この対処の決断をする時の、あなたの気持ちは? (どれか1つに丸を)
- 非常に苦しい
  - やや苦しい
  - 気軽だ

**場面H** 子ども達が小高い山に登っている。いつも元気のよい6歳児のH子は「あの坂を走って下ろうよ」と、他の者に提案する。この提案に他の者も「いいよ」といって賛同するが、保育者は少し坂が急なので、だれかケガしないか心配である。

- (1) 対応の仕方は? (どれか1つに丸を)
- 少し危険でも、子どもの挑戦する気持ちを大事に受け止め、はげましてやらせる。- 1
  - 「走って下るのに自信のある子だけ走らせ、少し自信のない子は歩いて下りてもいいようにしよう」と、保育者が提案し、なるべくケガのない様に配慮する。- 2
  - ケガをさせないのが、保育の基本なので、ケガの確率の少ない、もう少し坂のなだらかな方を、走る様指導する。- 3
- (2) この対処の決断に要する時間は? (どれか1つに丸を)
- すぐに
  - ちょっと時間をかけて
  - 相当時間をかけて
- (3) この対処の決断をする時の、あなたの気持ちは? (どれか1つに丸を)
- 非常に苦しい
  - やや苦しい
  - 気軽だ

**場面I** 5歳になるI男は、家で遊んでいたビー玉を園に持ってきて、他の者に見せている。そのビー玉はいろんな色の模様をしており美しい。そのビー玉を使いI男らは遊んでいたが、終りに自分のポケットに収める時、I男は一個ビー玉が足りない事に気付いた。I男はだれかが盗んだと訴えたが、その時はわからなかった。だが翌日、I男が保育者のところへ、無くなったビー玉を持ってきて、「あまり美しかったので、つい手が出て1個盗んでしまった。しかし親から返しなさいと言われ、持ってきた」と、ビー玉を盗んだ事を明らかにした。

- (1) 対応の仕方は? (どれか1つに丸を)

- ・その美しさに感動し、ちょっと手にしてみたいという気持ちを理解し、I男にビー玉を返させるようにする。－1
  - ・他の者のものを盗む事は悪いことなので、注意した後、I男にビー玉を返させ、あやまらせる。－3
  - ・他の者のものを盗む事は悪いが、美しさに感動する気持ちはすばらしい旨を、保育者はI男に伝える。－2
- (2) この対処の決断に要する時間は？ (どれか1つに丸を)
- ・すぐに
  - ・ちょっと時間をかけて
  - ・相当時間をかけて
- (3) この対処の決断をする時の、あなたの気持ちは？ (どれか1つに丸を)
- ・非常に苦しい
  - ・やや苦しい
  - ・気軽だ

**場面J** 3歳児のJ子は、前年まで担当だった保育者が今年に変更になった。しかしその新しい体制になってもう2カ月たった今でも、J子は元の担当者のいるクラスに入り、いっしょに活動しようとする。他の者が「Jちゃんは、他のクラスでしょう」といっても、一向に聞こうとしない。

- (1) 対応の仕方は？ (どれか1つに丸を)
- ・他の子が「よそのクラスの子」といっている事を考慮し、本来のクラスにもどるよう指導する。－3
  - ・J子が元の担当者との関係を切りたくないという気持ちを、強く持っている事情を考慮し、本人が納得するまで、今の状態で活動する事を認める。－1
  - ・J子が元の担当者との関係を切りたくないという気持ちを、強く持っている事情を考慮し、時にはいいが、基本的には本来のクラスですごすよう、指導する。－2
- (2) この対処の決断に要する時間は？ (どれか1つに丸を)
- ・すぐに
  - ・ちょっと時間をかけて
  - ・相当時間をかけて
- (3) この対処の決断をする時の、あなたの気持ちは？ (どれか1つに丸を)
- ・非常に苦しい
  - ・やや苦しい
  - ・気軽だ

表1 対処の仕方からみた内容分析 —1年—

場面 \ 成分	1	2	3	4	5
A	.584	.178	.187	-.203	-.600
B	-.017	.763	.180	.329	.012
C	.365	.232	-.375	.200	.401
D	.278	.534	.163	-.428	.372
E	.246	-.285	.451	.430	.003
F	.464	-.422	.242	-.079	.223
G	.755	.104	-.113	.170	-.318
H	.151	-.018	.714	-.002	.326
I	.477	-.131	-.353	.424	.256
J	.421	-.173	-.219	-.544	.154

表2 対処の仕方からみた内容分析 —2年—

場面 \ 成分	1	2	3	4
A	.511	-.228	.091	-.460
B	.207	-.105	.690	.159
C	.517	-.361	-.424	.082
D	.236	-.611	.006	.381
E	.589	.039	.004	-.183
F	.580	.334	-.199	-.365
G	.391	.480	.158	.264
H	-.030	.664	-.232	.151
I	.279	.171	.661	.095
J	.408	.093	-.272	.648

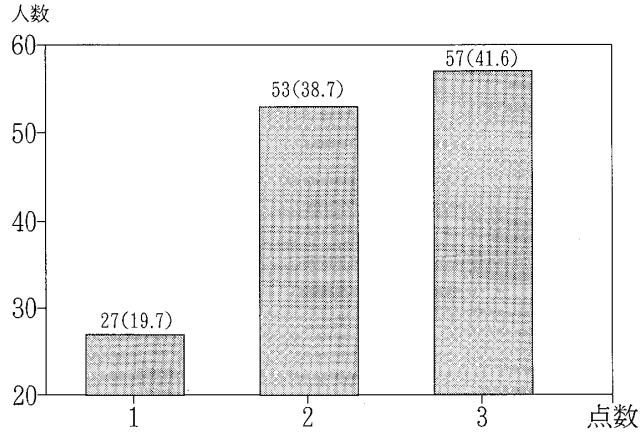
表3 決断する時の気持からみた内容分析 —1年—

場面 \ 成分	1	2	3
A	.354	.655	.062
B	.533	.347	-.455
C	.577	-.091	-.326
D	.596	.308	.205
E	.675	-.178	-.172
F	.579	.029	-.412
G	.449	-.747	-.085
H	.546	.076	.438
I	.583	-.039	.485
J	.527	-.243	.299

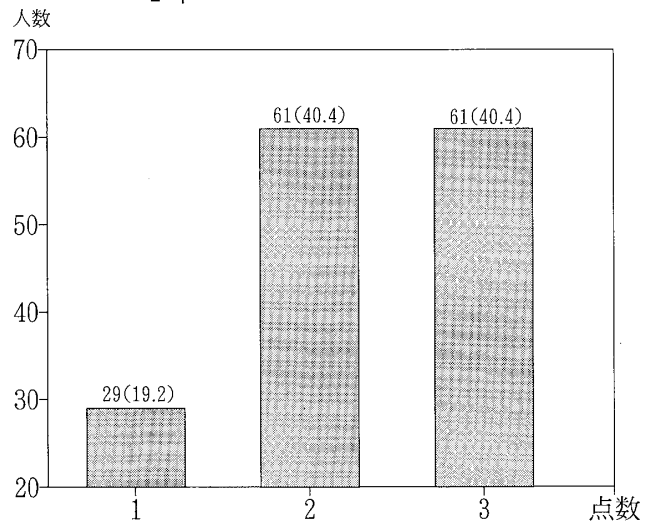
表4 決断する時の気持ちからみた内容分析 — 2年 —

場面 \ 成分	1	2	3
A	.429	.662	.205
B	.564	-.190	.333
C	.431	.262	-.127
D	.579	-.075	.591
E	.570	.383	.072
F	.612	-.185	.200
G	.514	.343	-.560
H	.596	-.467	-.208
I	.567	-.399	-.251
J	.662	-.034	-.255

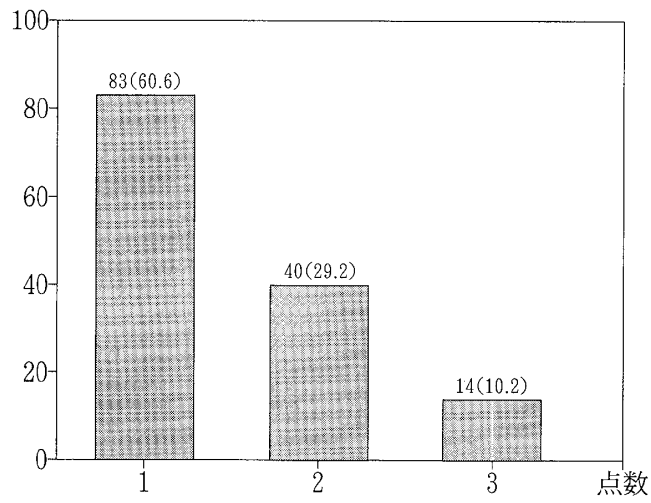
場面A — 1年 —



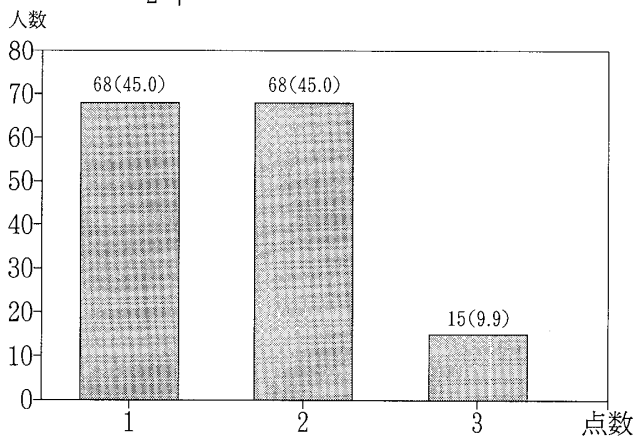
— 2年 —



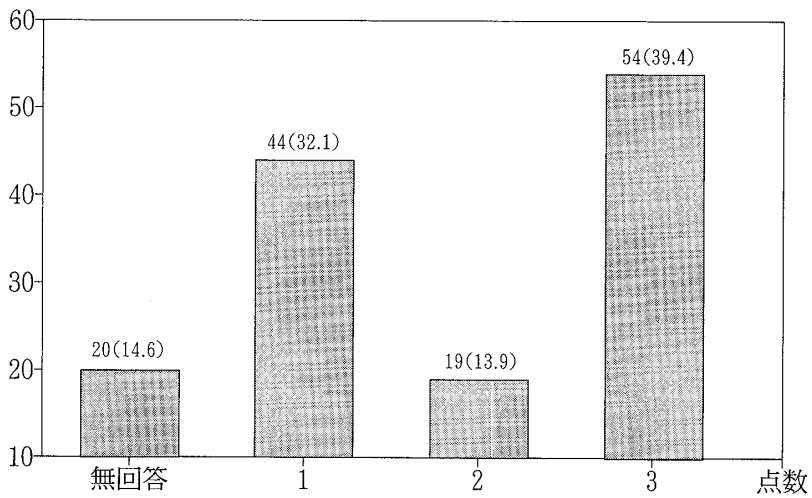
場面B — 1年—  
人数



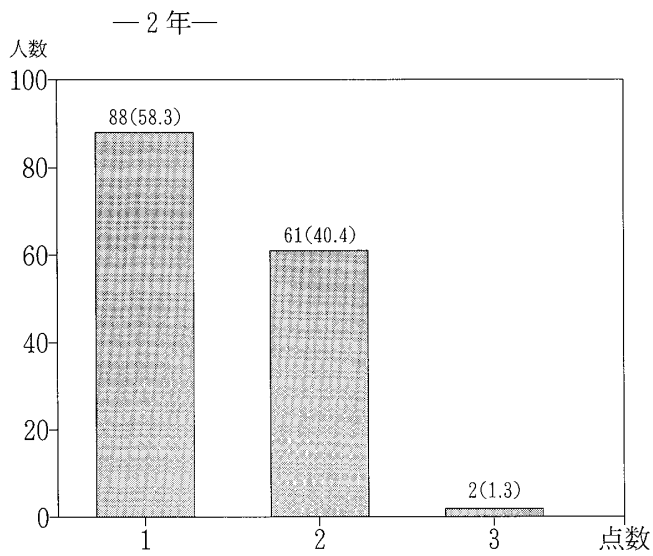
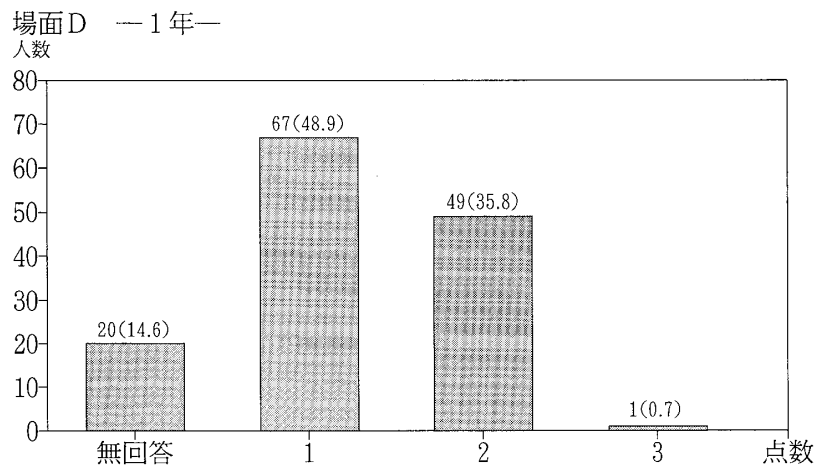
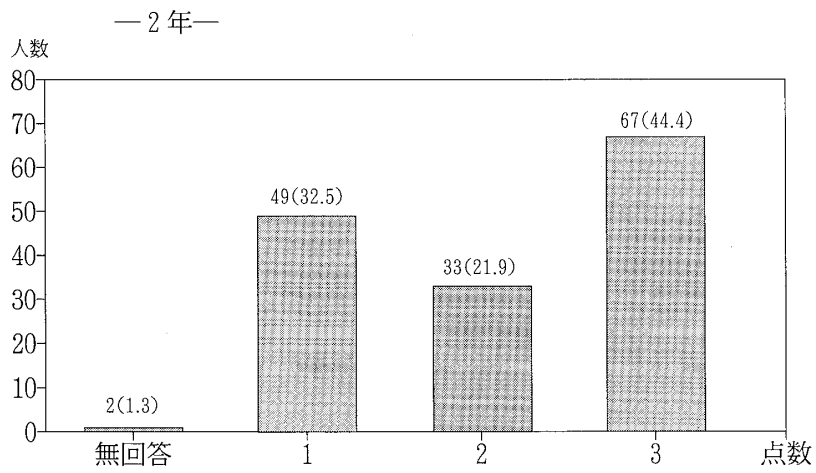
— 2年—



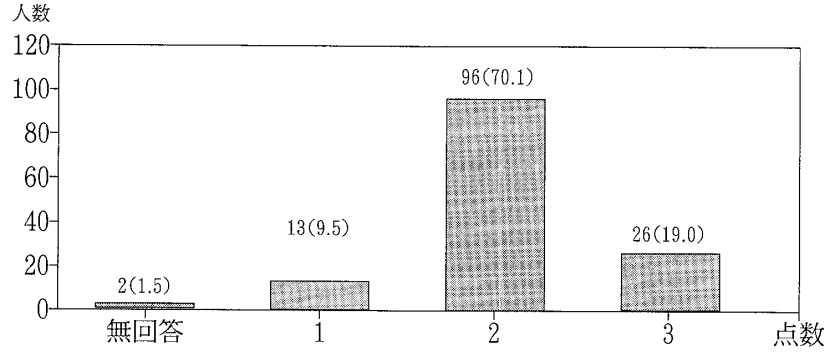
場面C — 1年—  
人数



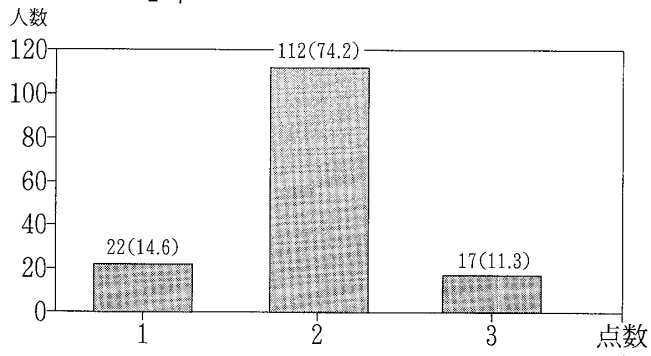




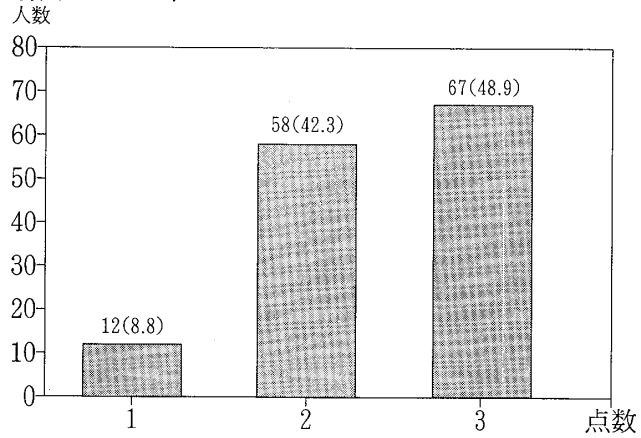
場面E —1年—

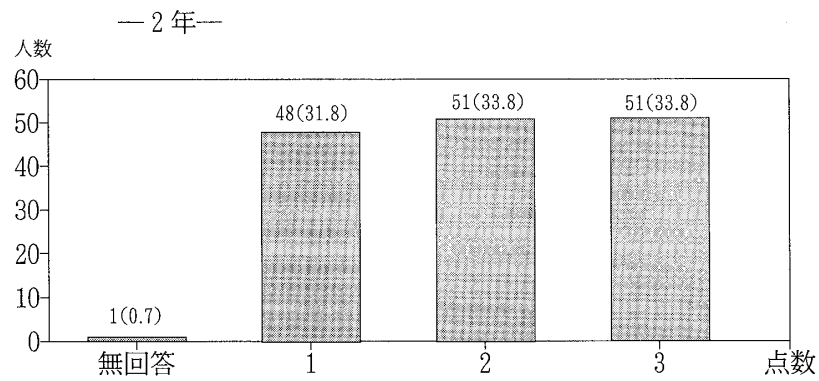
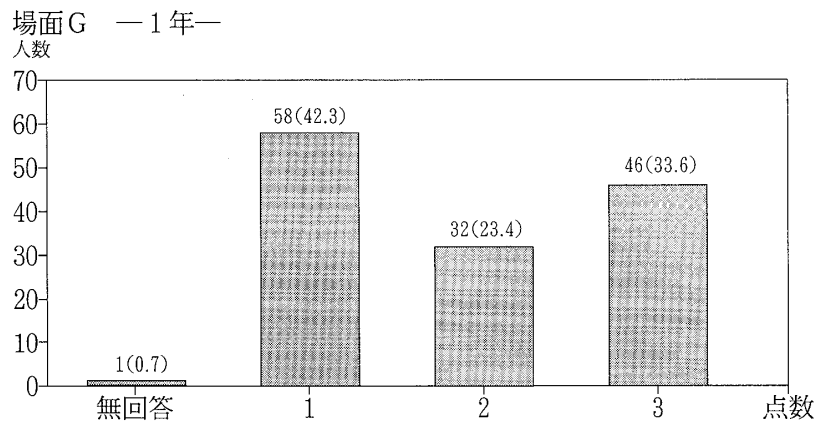
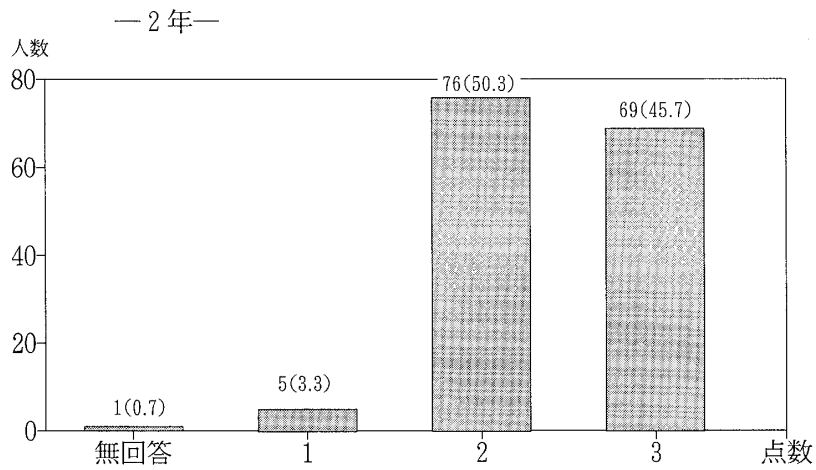


—2年—

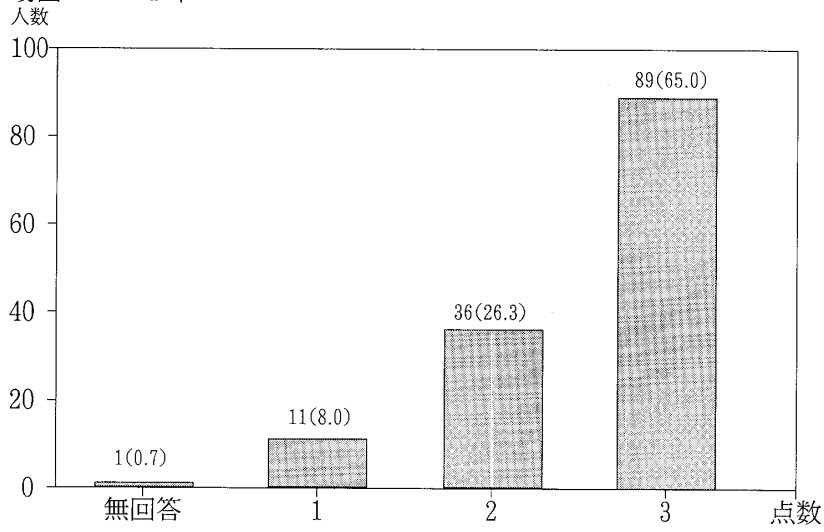


場面F —1年—

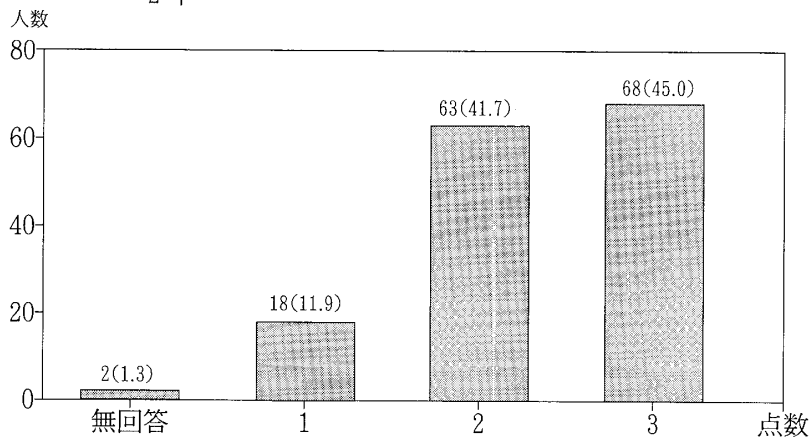




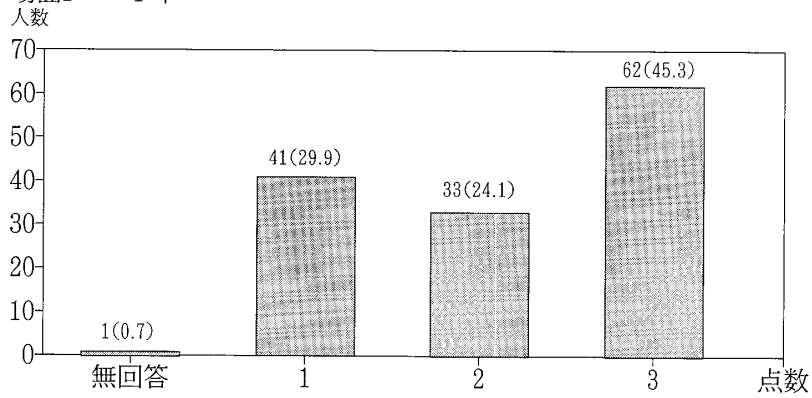
場面H — 1年—



— 2年—



場面I — 1年—



20

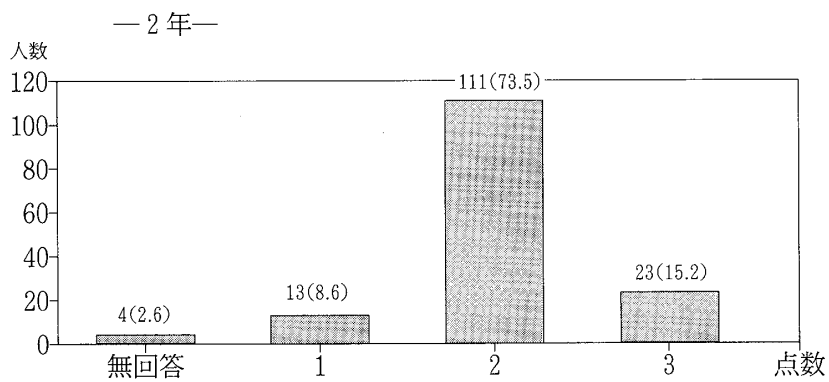
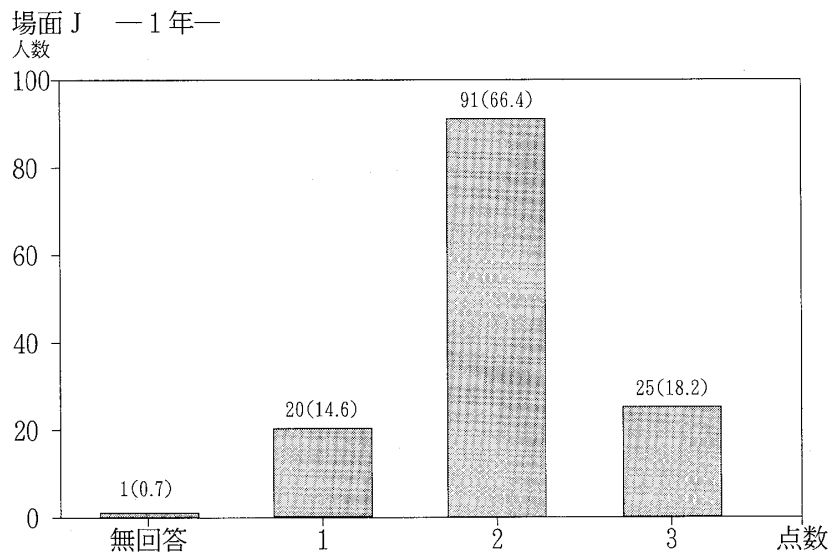
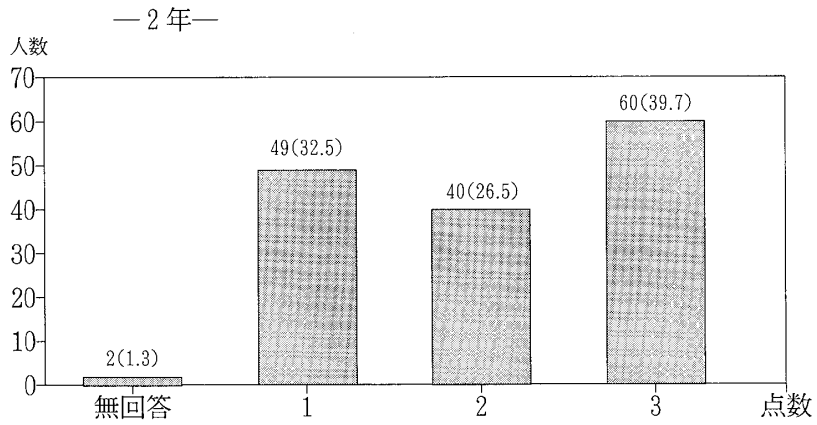


表5 決断に要する時間

場面	学年	度数				%			
		無回答	1	2	3	無回答	1	2	3
A	1年	0	20	116	1	0	14.6	84.7	0.7
	2年	0	12	136	3	0	7.9	90.1	2.0
B	1年	0	55	72	10	0	40.1	52.6	7.3
	2年	0	61	71	19	0	40.4	47.0	12.6
C	1年	20	37	71	9	14.6	27.0	51.8	6.6
	2年	1	40	89	21	0.7	26.5	58.9	13.9
D	1年	20	64	48	5	14.6	46.7	35.0	3.6
	2年	0	66	65	20	0	43.7	43.0	13.2
E	1年	1	50	75	11	0.7	36.5	54.7	8.0
	2年	1	54	70	26	0.7	35.8	46.4	17.2
F	1年	0	55	79	3	0	40.1	57.7	2.2
	2年	2	56	84	9	1.3	37.1	55.6	6.0
G	1年	0	37	55	45	0	27.0	40.1	32.8
	2年	1	37	57	56	0.7	24.5	37.7	37.1
H	1年	1	78	55	3	0.7	56.9	40.1	2.2
	2年	3	75	64	9	2.0	49.7	42.4	6.0
I	1年	2	59	73	3	1.5	43.1	53.3	2.2
	2年	3	58	78	12	2.0	38.4	51.7	7.9
J	1年	1	21	82	33	0.7	15.3	59.9	24.1
	2年	5	38	64	44	3.3	25.2	42.4	29.1

表6 決断する時の気持

場面	学年	度数				%			
		無回答	1	2	3	無回答	1	2	3
A	1年	0	23	102	12	0	16.8	74.5	8.8
	2年	0	30	112	9	0	19.9	74.2	6.0
B	1年	1	19	83	34	0.7	13.9	60.6	24.8
	2年	1	20	90	40	0.7	13.2	59.6	26.5
C	1年	20	19	76	22	14.6	13.9	55.5	16.1
	2年	1	32	93	25	0.7	21.2	61.6	16.6
D	1年	20	3	66	48	14.6	2.2	48.2	35.0
	2年	3	7	80	61	2.0	4.6	53.0	40.4
E	1年	1	15	83	38	0.7	10.9	60.6	27.7
	2年	2	28	81	40	1.3	18.5	53.6	26.5
F	1年	0	21	93	23	0	15.3	67.9	16.8
	2年	2	30	95	24	1.3	19.9	62.9	15.9
G	1年	1	54	70	12	0.7	39.4	51.1	8.8
	2年	2	70	68	11	1.3	46.4	45.0	7.3
H	1年	2	10	84	41	1.5	7.3	61.3	29.9
	2年	2	12	92	45	1.3	7.9	60.9	29.8
I	1年	2	7	90	38	1.5	5.1	65.7	27.7
	2年	3	22	88	38	2.0	14.6	58.3	25.2
J	1年	1	37	92	7	0.7	27.0	67.2	5.1
	2年	5	40	90	16	3.3	26.5	59.6	10.6

表7 対処の仕方の配点結果(高得点順位から)

— 1年—

順位	場面	N	M	SD
1	H	136	2.57	0.64
2	F	137	2.40	0.65
3	A	137	2.22	0.75
4	I	136	2.15	0.86
5	E	135	2.10	0.53
6	C	117	2.09	0.92
7	J	136	2.04	0.58
8	G	136	1.91	0.87
9	B	137	1.50	0.68
10	D	117	1.44	0.52

— 2年—

順位	場面	N	M	SD
1	F	150	2.43	0.56
2	H	149	2.34	0.68
3	A	151	2.21	0.74
4	C	149	2.12	0.88
5	I	149	2.07	0.85
6	J	147	2.07	0.49
7	G	150	2.02	0.81
8	E	151	1.97	0.51
9	B	151	1.65	0.66
10	D	151	1.43	0.52

表8 決断に要する時間の配点結果(高得点順位から)

— 1年—

順位	場面	N	M	SD
1	J	136	2.09	0.63
2	G	137	2.06	0.77
3	A	137	1.86	0.37
4	C	117	1.76	0.58
5	E	136	1.71	0.61
6	B	137	1.67	0.61
7	F	137	1.62	0.53
8	I	135	1.59	0.54
9	D	117	1.50	0.58
10	H	136	1.45	0.54

— 2年—

順位	場面	N	M	SD
1	G	150	2.13	0.78
2	J	146	2.04	0.75
3	A	151	1.94	0.31
4	C	150	1.87	0.63
5	E	150	1.81	0.71
6	B	151	1.72	0.67
7	D	151	1.70	0.69
8	I	148	1.69	0.62
9	F	149	1.68	0.58
10	H	148	1.55	0.61



表9 決断する時の気持の配点結果 (低得点順位から)

— 1年—

順位	場面	N	M	SD
1	G	136	1.69	0.63
2	J	136	1.78	0.53
3	A	137	1.92	0.50
4	F	137	2.01	0.57
5	C	117	2.03	0.59
6	B	136	2.11	0.62
7	E	136	2.17	0.60
8	H	135	2.23	0.57
9	I	136	2.23	0.53
10	D	117	2.38	0.54

— 2年—

順位	場面	N	M	SD
1	G	149	1.60	0.62
2	J	146	1.84	0.60
3	A	151	1.86	0.49
4	C	150	1.95	0.62
5	F	149	1.96	0.60
6	E	149	2.08	0.67
7	I	148	2.11	0.63
8	B	150	2.13	0.62
9	H	149	2.22	0.58
10	D	148	2.36	0.57

表10 対処の仕方の差 — 1年—

場面	B	C	D	E	F	G	H	I	J
A	**	**	**	**		**	**		**
B		**	**	**	**	**	**	**	**
C			**	**	**		**		**
D				**	**	**	**	**	**
E					**	**	**	**	
F						**		**	**
G							**		**
H								**	**
I									**
J									

\* \* \* 1%有意

表11 対処の仕方の差 — 2年—

場面	B	C	D	E	F	G	H	I	J
A	**	**	**	**	**				**
B		**	**	**	**	**	**	**	**
C			**	**	**		**		**
D				**	**	**	**	**	**
E					**	**	**	**	
F						**		**	**
G							**		**
H								**	**
I									**
J									

\* \* … 1%有意

表12 決定時の気持の差 — 1年—

場面	B	C	D	E	F	G	H	I	J
A			**	**		**	**	**	
B			**			**			**
C			**			**	**	**	**
D					**	**			**
E						**			**
F						**			**
G							**	**	
H									**
I									**
J									

\* \* … 1%有意

表13 決定時の気持の差 — 2年—

場面	B	C	D	E	F	G	H	I	J
A	**	**	**	**		**	**	**	
B			**			**			**
C			**			**	**		
D				**	**	**		**	**
E						**			**
F						**	**		
G							**	**	**
H									**
I									**
J									

\* \* … 1%有意

表14 対処の仕方、決定時の気持の学年差

場面	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1 • 2 年	対応の 仕方							**		
	決定時 の気持									

\* \* … 1%有意